



バンホーテンのココア

秋も深まり、朝晩はめつきり冷え込んできた。天気が良い日は、庭の日当たりが良く、温かいのがあるが、冬から春に向けての花、パンジーやビオラ、デイジーを植えたがすでに咲き乱れている。

秋の夜長に飲む温かい飲み物は、心と身体をしぶりにおいしいココアを飲んだ。バンホーテンのココアである。大学時代からの親友は父親が船乗りだったので、世界中の珍しいものを紹介してくれた。バンホーテンのココアもその一つである。



バンホーテンのココア

てくれる。味覚とは不思議なものである。約30年前、1992年2月に、「ドイツ・ロマンチック街道とスイス・アルプズモンブラン、パリ9日間」ツアーに妻と参加した。

モンブランを一望できるプレヴァンの山頂(2595m)までケーブルカーで登り、山小屋のカフェで飲んだココアの味である。妻がガイドブックで、このココアが勧められて、ココアと言って通じないので、「ホットチョコレート」と言うて注文するようにお願いを調べておいてくれた。

「ホットチョコレート」と注文すると、ウエイターが親指を立てて、「グッド」といい、自慢の飲み物なのだろうと思つたことが思い出される。この時も、その様子を見ていた団体旅行のメンバー

「ホットチョコレート」と注文すると、ウエイターが親指を立てて、「グッド」といい、自慢の飲み物なのだろうと思つたことが思い出される。この時も、その様子を見ていた団体旅行のメンバー



ケーブルカーのチケット

バーは「ホットチョコレート」を注文しはじめた。何年かぶりにアルバムを開くと、登頂証明書やケーブルカーのチケットも張っていた。断捨離がブームではあるが、旅の思い出の品々は、老いに加えて、

何よりも驚いたのは30年前の妻が、長女と見違えるほどであったことだ。これは反対で、長女が妻に似ているという事。



登頂証明書